



啐啄 NO.737

☎ 25-5125
☎ 25-3150

「自己有用感」を高めましょう！

校長 峯 明 紀

いよいよ令和2年も残すところ10日あまりとなりました。師走は逃げていくと言われますが、まったくそのとおりだと思います。後期は、運動会やマラソン大会、縦割り班で取り組んだすずかけ集会など、様々な行事や発表を重ねてきました。子どもたちは、多くの経験を積み、一人一人がねらいをしっかりとって行事に取り組み成長してきていることを実感しています。



さて、今年度の学校目標は、一人一人の児童が「自分は価値ある存在」「自分は役に立つ行動をしている」「自分の行動や存在が認められている」と自覚でき、その結果として自信をもって生き生きと活動できるよう、「自己有用感」を高めることを目指しています。そのために学校では、教育活動全体をとおして「自己有用感」を高める以下の4つのポイントに取り組んできました。

- (1) 子どもをよく見て、その子に応じてほめる。
- (2) 子どもの話をじっくり聴いたり、子どもに話しかけたりする。
- (3) 一人一人に活躍の場を与えて見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせる。
- (4) 子ども同士が認め合う場を設定するなど、人間関係づくりを支援する。

学校目標の達成状況を把握する方法として「自己有用感」に関わる児童アンケートを実施しています。7月と12月に実施したアンケートで、肯定的に回答した児童の割合を表にしてみました。

項 目	7月	12月
1 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	83%	87%
2 先生からわたしに話しかけてくれる	85%	85%
3 先生は話を聞いてほしい時には話を聞いてくれる	91%	94%
4 先生は授業の中で、クラスの人同士でよいところを認め合う場をつくってくれる	91%	94%
5 自分にはよいところがある	76%	75%
6 自分はみんなのために役に立っている	66%	71%
7 自分はクラスや学年が違う人とも協力して行動している	82%	84%
8 自分は「新井田小のよい子のやくそく」を全部言える	43%	51%
9 自分は進んで授業に参加している	89%	89%



2回のアンケートの結果から、「自分にはよいところがある」の項目以外は、12月の回答率が同じか上がっています。ただ子どもたちは、教師が積極的にほめたり、話しかけたり、話を聞いてあげたりしていることを感じつつも、「自分にはよいところがある」「みんなのために役立っている」と自覚したり、自信をもったりするまでには至っていない子どもたちの状況が推察されます。引き続き「自己有用感」を高める4つのポイントに取り組んでまいります。冬休みに入りますが、保護者の皆様もどうぞこれら4つのポイントを意識して、お子様を見守り励ましていただければ幸いです。どうぞ、よいお年をお迎えください。

